

各関係機関団体の長
殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第6号

水稻の葉いもちの発生状況について

県内の中山間地を中心に葉いもちの発生が例年より早い時期から確認されており、一部多発しているほ場がみられます。調査地点では、平年より少ない発生ですが、平坦部の一部で進行型の病斑がみられました。いもち病は早い時期での防除が効果的なので、初発に注意し、発生が認められた場合は直ちに防除を行いましょう。また、今後の気象条件では、発生が助長される可能性がありますので、十分に留意ください。

1 作物名 水稻

2 病虫害名 葉いもち

3 発生地域 県全域

4 発生状況

(1) 7月2半旬調査の結果、発生量、発生ほ場率は平年より少なかった。

発生株率 0.36% (平年 0.42% 前年 0.15%)

発生ほ場率 2.2% (平年 3.1% 前年 7.7%)

(2) 調査地点以外では、地域差はあるものの例年に比べ早い時期から発生が確認されている。

(3) 福岡管区気象台が7月9日に発表した九州北部地方の1ヶ月予報によると、平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は7月下旬から8月下旬は低い傾向である。これまで本病の発生に好適条件が続いた地域では、今後の発生推移に注意する。

5 防除上注意すべき事項

(1) ほ場によって、発生状況が大きく異なるため、本田での状況をよく確認し、初発を確認したら速やかに防除する。

(2) いもち病の発生が多い地域では、出穂期直前と穂揃期の2回防除を行う。気温が25℃前後と低く、葉の湿潤状態が継続する場合は防除回数を増やす。降雨が続き、地上散布が困難な場合は早めに粒剤の施用を行う。

(3) 防除に当たっては、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を順守する。

(4) 今後の発生状況については、防除所ホームページ(<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>)を参照する。



進行（進展）型病斑



停滞型病斑